

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271300251		
法人名	有限会社 高梨ウェルビーイング		
事業所名	あつたかさん		
所在地	千葉県野田市上花輪595		
自己評価作成日	平成24年2月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ゆったりとした時間の中でいきいきと暮らしていただける様見守っていく事を基本姿勢に考えています。家族・地域の人達との交流を大切に入居者の方1人ひとりの気持ちを大切にしながら支援していきたいと思っています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座6-5-12 みゆきビルbizcube7F		
訪問調査日	平成24年2月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、閑静な住宅街の一角にある経営者の住まいの敷地の中にあり、施設への玄関までの通路周辺は、木々の緑や草花、花壇に囲われており、周辺には菅原神社、香取神社或いは上花輪歴史館など暮らすにはとても良い環境にある。近隣の方が普通に遊びに来られ、地域からも好意的に迎えられており、職員の家庭事情や身体的事情で余儀なく退職された人はいるものの職員間トラブルなど皆無で、雰囲気・風通しも良く、向上心に溢れていること、経営者や管理者は職員の意見を良く聴取することで安定的な支援事業が行われている。このことは、安定的に利用者を大事に支援していることの裏付けでもあり、評価実施にあたって行なった職員の面談や家族のアンケート結果からも、また、お会いした利用者の顔色、笑顔からも窺えることができた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた介護をめざしスタッフ1人1人が現場で仕事をしている。	地域密着型サービスの意義をふまえて、利用者の安心と尊厳のある生活を可能な限り、自立して営むことができるように個別ケアに取り組んでいる。管理者と職員は、その理念を全員が会議などで確認し、共有してサービスにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が住民として交流しており近隣との関係も続いている。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、市の福祉課や近隣住民とも話し合い、これらの方を含め楽しんでもらうための工夫をしてイベント等の開催に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が個人的ではあるが地域の福祉行政に参加し認知症の支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は取り組みませんでした。	今年度、実施はされなかったが個別に連携をとっている状況である。今後、開催を再開する予定となっている。	運営推進会議開催のための体制を立て直し、2ヶ月に1回開催することにご努力いただきサービス向上に活かしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今後も市の関係者、相談員とも協力していきたいと思っている。	市高齢者福祉課と日頃から相談などで連絡を取り合い、また介護相談員の来訪(2ヶ月に1回)のその折に事業所の実情やケアサービスの取り組みに疑問を生じた事柄を相談し、協力関係を築くことができるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。危険な状態にある場合は家族と相談している。(ベッド柵等)	代表者および全ての職員が身体拘束をしないケアの内容を正しく理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しておらず、午後10時までは開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあり得ないと思うが、スタッフ全員が注意するようにしている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時は入所時に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い家族に不安、疑問等ない様話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された時や必要な時にその都度要望を聞き、納得のいく対応を行っている。	イベント等で家族ご来訪の際には、必ず直接ご意見を聴取する体制が整えられ、できる限りの要望を聴取し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とのコミュニケーションを大切にしている。	日頃のコミュニケーションにより意見としての提案やカンファレンス及びミーティングにおいての意見、提案を実際に取り上げ、検討し実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての職員が不満なく就労してもらえる様、働きやすい環境・条件をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受け、レベルアップを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国ネットワークの交流、市の事業者会議などでサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の昼食への参加、家庭訪問、おためし入居と安心して入居して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定後、ご家族の不安が解消できる様、よい関係づくりができる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャー等の話しを伺い入居して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員との関係は子ども・友人の様な形をとり、毎日を過ごして行きたいと思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える為に家族と職員は共働の形をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人とのふれあいを多くいつもの町に住んでいる状態を保持している。	友人などの来訪による面会は自由とし臨機応変に対応している。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族の協力を得て支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆったりと仲よく生活できる様気を配っている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時も今まで通り支援し、契約終了後もしばらくの間は連絡を取ってフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望は日誌等で把握し、連絡ノートや家族との話し合いで生活して頂いている。	利用者との日頃の関わり合いの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族の話しを聞くなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の話や今まで過ごしてきた環境、ご本人の話を把握し対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態、心理状態に気付く様に努め、少しの事でも見逃さない様職員全員で協力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とも話し合いながら相談し合い計画を立てている。	アセスメント→利用者本人、家族の要望を聴取し、仮プランを作成し、ケアカンファレンスにおいてスタッフの意見も取り入れたうえで、かつ一人ひとりの状況に応じて、短期、長期の計画が設定されている。	支援経過記録を作成すること。日々のケアが適正か否か判断する過程(モニタリング)が必要で、短期・長期の目標期間が同じで、見直し時期に評価又は再計画がされていない。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の健康状態、心理状態を細かく記録し、見直しをたてている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	24時間の生活を支える為その都度考え支援している。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、民生員、地区社協、ボランティアの会などに協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ホームドクターとの関係の中で安心して医療が受けられる様支援している。	提携先診療所により月2回の往診を実施し、適切な医療を受けられる体制となっている。またこれまでのかかりつけ医の受診については、家族との協力体制により図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは医師の指示や服薬などの細かい注意点を相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スタッフも本人やご家族に協力し病院関係者との関係づくりを行っている。(食事介助をする事が多い)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を説明し、重度化した場合、再度ご家族と相談し対応している。	重度化や終末期については、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、理解が得られるように努め、終末期の際は、家族と方針を共有して主治医、看護師、家族と共に支援に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや感染症、急変時の対応等の講習を受けスタッフが実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の訓練、月々の自主訓練を行っている。(現在スプリンクラー、火災報知機等設置工事中)	毎月自主訓練を実施し、11月には、消防署立会いの下に避難訓練を実施している。夜間は、経営者家族が同敷地に居住しているため、夜間職員他多数の救援、救助を期待できる環境にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や生活を尊重しプライドを傷つけぬよう、言葉かけ、接し方に注意している。	職員は、「家族的」と「介護サービス」の折り合いを肝に銘じ、当ホームの介護方針である「敬う心と敬う言葉」をモットーに一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように日頃の言葉かけやそのタイミングと対応に注意深く接している。	全般的に社内研修会については、実施されている様子は窺うことができるが、それらの研修が実施された記録(議事録)の保管が確認できなかった。今後、議事録を残すように改善されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切にし何が本当にしたいのか、実現できる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムをくずさぬ様に毎日を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、本人の好きなおしゃれ等には気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー、買い物、調理、後片付け楽しみながら一緒に行っている。	食事が楽しみなものになるよう、利用者と職員と一緒に食事し、一人ひとりの好みや力を活かしながら、出来る人は一緒に準備や食事、片付けをしている。また、外食にも配慮し、回転寿司や市役所食堂に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、食事量、水分量等個々にチェックし注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、義歯のチェックは必ず行っている。		

あつたかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンをチェックし、トイレ誘導を促している。	現在おむつ使用者は皆無で、リハビリパンツ1名又はパット数名である。一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握してトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の量、やわらかさ、水分調整、体操、散歩等、個々に工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っているが、バイタルチェックをしその日の体調により決めている。	調査日は冬場であり、冬場はすくなくとも1日置きにバイタルチェックをしてから、入浴することを勧めている。夕食までには入浴を終えるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝も行っている(全員ではないが)安眠できる様、日常生活に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服薬時には注意を払い、量の調整、医師への報告等、細かく支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることをお願いし役割を決めている。楽しみや気分転換になる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は地震が多く、夏の暑さにも負け、外出が少なくなってしまった。昨年秋頃より外出をするようになってきている。	施設周辺の散歩のほか、七夕祭り、歩け歩け運動、近隣の工場見学などへ出かける外出支援があるが、利用者個人ごとの体調や状態を勘案し、家族の協力を得て、個別で支援するように努めている。	

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人もいるがほとんど使っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい人はその都度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や太陽、木々の緑を感じられるように考えている。トイレ、浴室などの温度調整にも注意している。	玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事で取られた写真や装飾品を掲示し、生花を置いて生活感や季節感を醸し出し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はほとんどホールにて過ごしているが、居室に戻りテレビ等をみている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな物、必需品にかこまれて過ごされている。安全に注意し配置等にも気をつけている。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたタンス、家具など、また好みのものを配置し、清掃や整理整頓も十分になされ清潔に保たれており、ご利用者様が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることを見つけ出しできるだけ自立した生活を送って頂く様支援している。		